

工事事故防止行動計画

ニュースレター

工事事故「0」を目指して

令和元年10月29日事故発生

【被害】

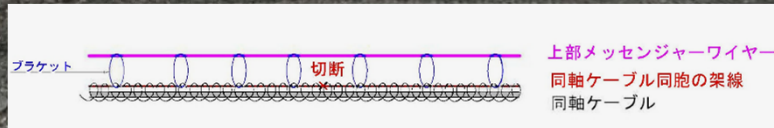
- ・架空線切断
- ・本復旧まで「25日間」
※即日、仮復旧
- ↓
- ・工事中断「10日間」
- ・公衆損害による「減点」

架空線

「監視員」を設置していたが・・・

「注意喚起看板」を設置していたが・・・

【架空線参考図】



5m

【事故の概要】

- 河川の河床掘削現場での整地作業時
- 架空線接触防止対策として注意喚起看板を架空線直下のみに設置。監視員は離れた位置で残土搬出作業を確認していた。
- バックホウオペレータは架空線への注意を怠り、バックホウを巡回させたときにアームが架空線に接触し、同軸ケーブル同胞の架線が切れて上部メッセンジャーワイヤーからのブラケットが外れ同軸ケーブルが垂れ下がった。

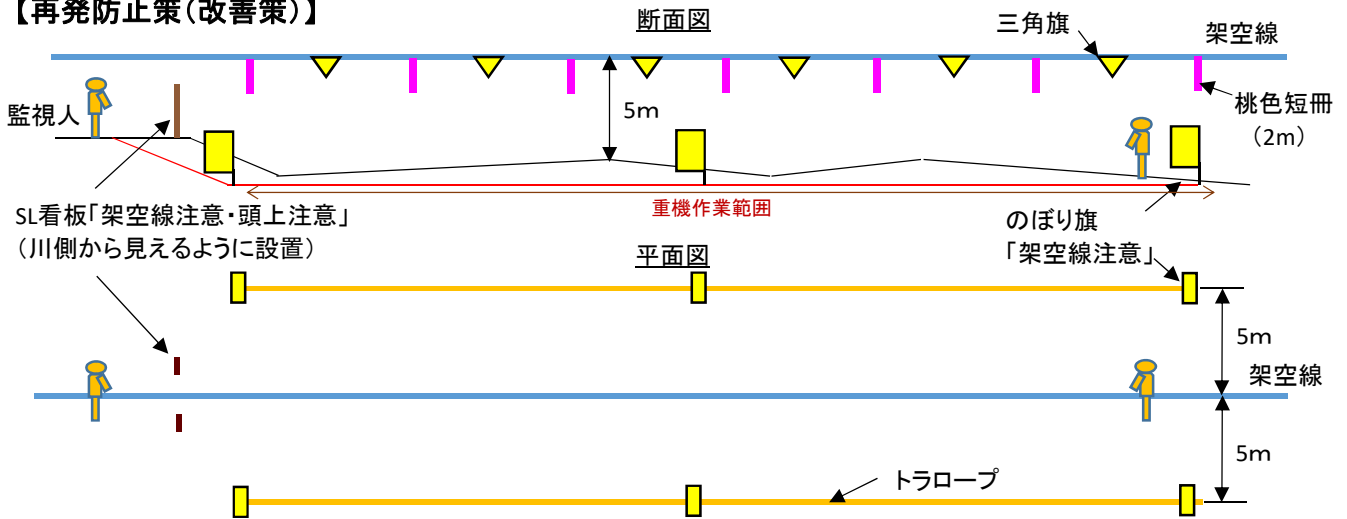
【再発防止策】

- 架空線前後5mに注意喚起用ののぼり旗を設置し架空線に2mのピンクの短冊を吊り下げバックホウオペレータに認識させる。
- 架空線直下から上下流5m以内では巡回操作を行わないよう架空線付近での重機走行・巡回等の作業手順書を作成する。
- 架空線付近の作業では監視員を左右岸に2名配置し、複数通話できる無線機でバックホウオペレータに架空線付近であることを知らせる。

交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和元年 11月末現在 (前年同期)
	件数	0件(1)	0件(1)	20件(23)	20件(25)	

令和元年11月30日までで「死亡事故ゼロ」1352日を達成しました！

【再発防止策(改善策)】



現場の頭上支障物件接触事故防止のための事前確認・対策フロー

作業工程での頭上影響範囲hの確認

- ①バックホウ等の搬入・搬出時
(運搬車荷台高+バックホウ等アーム高)
- ②日々のバックホウ等の現場への進入・退出時
(バックホウ等のアーム高)
- ③バックホウ等アーム最大上げ高
- ④ダンプのダンプアップ高
- ⑤施工基面の最大高時の①~④の高さ
- ⑥ヤード内移動時の③④の高さ

現場の頭上支障物件までの高さHの調査

- 現場の頭上支障物件の確認
- ・架空線
 - ・街灯
 - ・看板、案内標識
 - ・橋桁 等
- 複数ある場合はHが小さいものから配慮!

頭上支障物件の高さHの確認

施工基面から頭上支障物件までの高さ
(施工基面変化時は最大高時を考慮)
(最大高時:高さH最小時) 図⑤参照↓

$h \geq H$ 今回の架空線までのH=5.0m

頭上支障物件接触事故防止対策

- ①接触影響範囲を明示
・柵やロープ、旗等で周囲と区分
・路面標示
- ②架空線等に防護カバー、旗等をつける
- ③誘導員等を付け頭上支障物件に接触しないよう指示
- ④旋回・アーム引き上げ時、ダンプアップ時等に誘導員等不在の場合にはオペレータやドライバー自らが重機操作前に装置の移動先に支障物件がないことを確認

今回、③対策を講じていたが、残土搬出に気を取られていた

